

こども通信

(1) 355号 こども・つらしん 2020年7月

一年の半分が過ぎ、今年も後半に入りました。前半は新型コロナに完全にノックアウトされました。後半はどうなるのでしょうか。

暑さも厳しくなりますが、新型コロナとの闘い(共存?)にも明け暮れることがになるのでしょうか。どうぞご自愛下さい。

* * *

先月、当院が開院30周年という大きな節目を迎えました。多くの方々からお祝いのメッセージをいただきました。その一つひとつを読みながら、これまで振り返り、医院を通して社会貢献が少しばかれていたのだと嬉しくなりました。

改めて、温かく見守ってくださっている皆さんに感謝申し上げます。それにしても、30年にして新型コロナによって甚大な影響を受ける



上越市からの委託料のみ。利用者数によって委託料が決まる仕組みになつていて、このままで年間で一千円の単位での減収になります。

支出の大半は保育士などに人件費。冬場にインフルエンザなどが流行すれば、また利用は多くなることでしょう。現行の保育体制を維持する

ことになりました。医院は感染予防のため、ドライブスルーを設置するなど、対応に追われました。

医院に併設している病児保育室は、利用者が約7割減少。病児が少なくなったことは、とても良いことですね。マスクや手洗いなど、生活の改善が効果をもたらしました。でも、経営問題が生じています。

そのため、ドライブスルーを設置するなど、対応に追われました。医院に併設している病児保育室は、利用者が約7割減少。病児が少なくなったことは、とても良いことですね。マスクや手洗いなど、生活の改善が効果をもたらしました。でも、経営問題が生じています。

これまで赤字がでれば医院から持ち出していましたが、今は「体力」がありません。

先日、市の副市長さんらと懇談し、現状をお話し、「理解いただきました。今後、子育て支援としての病児保育が安定して運営できるようになるのではないか」と思いました。

新型コロナが日常を大きく変化させていますが、これを期に良い方向に進むことができればいいですね。

感染症情報

現在、感染症の大きな流行はおきていません。子どもたちの健康状態は総じてとても良いようです。

そんな中でも溶連菌感染症が若干発生しています。溶血性レンサ球菌という細菌による咽頭炎で、強い咽頭痛と発熱が特徴です。適切な抗菌薬による治療が必要です。

類似の症状ですが、アデノウイルス性咽頭炎もときどき見かけています。こちらは対症療法で経過を見ます。いずれもいったん登園（登校）停止になります。

感染性胃腸炎も少数の発生があります。小児は脱水や低血糖になりやすく、ぐったりとしている場合はすぐに受診して下さい。

夏場は食中毒による細菌性腸炎も発生がしやすくなります。食品の衛生管理に十分注意していてください。

風疹や麻疹の発生は当地ではありません。

新型コロナ感染症は全国的にいったん下火になりました。新潟県内などでは収束したと言われています。しかし、首都圏などではまた発生数の増加。海外では流行の拡大も報告されています。やはり無警戒に安心して良い状態にはなっていません。

自粛していた会合や往来が解除になり、しだいに通常の生活に戻つてきますが、感染し合うような状態にならないよう、日頃からの手洗い、マスク着用などをひきつづきお願いします。

今月の予定

院長出務

上越市夜間診療所出勤 15日

上越市乳幼児健診 8、15、22日

上越有線放送 「健康ライフ」 21日

FM上越「Dr. ジローのこども健康相談」

毎週木曜午後 1:20頃～(76.1MHz)

感染症情報 (毎週)

FM上越：木曜午後 1:35頃～

上越有線放送：月曜午後 6時～(番組内)

熱中症に注意を

熱中症の症状の分類（重症度）

○ 1度（軽症）

めまい、たちくらみ、筋肉痛、こむら返り、汗をふいてもふいても出てくる
○2度（中等症）

頭痛 叶き氣 田

暑いのに汗がでにくくなる

○ 3度（重症）

意識がもうろうとする、けいれん、体温が40度以上になる

新型コロナにおびえるように生活をしていますが、この季節に忘れてはいけないのが熱中症の発生です。梅雨の終わり頃、蒸し暑く、まだ体が暑さに慣れていないために、もつとも発生しやすくなります。

熱中症はいろんな場所でおきます。家中でも外でも。日中でも夜でも。運動中でも休んでいる時でも。熱中症は時に死に至ることもありうる怖い病気です。一方で、それなりの対策をしつかりとつていれば確実に予防できます。熱中症にならないように注意するとともに、もしなつてしまつても、軽いうちに早く

新型コロナにおびえるように生活をしていますが、この季節に忘れてはいけないのが熱中症の発生です。梅雨の終わり頃、蒸し暑く、まだ体が暑さに慣れていないために、もつとも発生しやすくなります。

熱中症はいろんな場所でおきます。家中でも外でも。日中でも夜でも。運動中でも休んでいる時でも。熱中症は時に死に至ることもありうる怖い病気です。一方で、それなりの対策をしつかりとつていれば確実に予防できます。熱中症にならないように注意するとともに、もしなつてしまつても、軽いうちに早く

染症の予防のためにマスク着用をお願いしていますので、それがまた熱中症発生のリスクを悪化させてしまうかも。運動時や屋外にいる時など、周囲との距離を適切にとる（1～2メートルの間隔）ことをしてれば、マスクはしなくても大丈夫です。

手洗いをこまめにおこなう、手を顔につけない、などという接触感染の予防は常に守っていてください。

熱中症の予防としては、炎天下の外出や活動・運動はできるだけ避け、帽子をかぶり、水分を適切にとるなどの対策を徹底してください。

染症の予防のためにマスク着用をお願いしていますので、それがまた熱中症発生のリスクを悪化させてしまうかも。運動時や屋外にいる時など、周囲との距離を適切にとる（1～2メートルの間隔）ことをしてれば、マスクはしなくても大丈夫です。

手洗いをこまめにおこなう、手を顔につけない、などという接触感染の予防は常に守っていてください。

熱中症の予防としては、炎天下の外出や活動・運動はできるだけ避け、帽子をかぶり、水分を適切にとるなどの対策を徹底してください。

ンナーとして院長が参加するなど、その後もお付けています。

30年の歩み(2)

● 1995年6月 世界の子どもにワクチンを

開院5周年を記念して童謡コンサートを2回に渡って開催したことは前号でお話しました。このコンサートにはもう一つの大きな目的があります。それは「世界の子どもにワクチンを 日本委員会」(JCV)への募金です。

この委員会は前年に誕生。名称通り、世界中の子どもたちに必要なワクチンを送り続けることを目的に設立された団体です。代表は細川佳代子さん（夫の細川護熙さんは後に総理大臣になっていますので、日本のファーストレディーの方です）。その活動を知り、小児科医である私が関わらないわけにはいかないと思い（思い込み？）、いわば押しかけで協力を申し出ました。

このコンサートでは、来場される方々に書き損じハガキなどの募金を依頼。2回で、あわせて約35万円分が集まり、募金いただきました。その後、当院からは「ワクチン1回につき100円を募金する」というマイルールを作り、これまで継続して募金を続けてきました。25年間続けてきましたが、これまでの総額は約730万円になっています。継続は力なり。

団体代表（現在は会長）の細川佳代子さんには、当院が主催した子育て講演会に講師としてお越しいただいたことがあります。また、昨年の大阪マラソンには、ICVを応援するチャリティーラ

ンナーとして院長が参加するなど、その後もお付き合いが続いています。

JCVの活動は、当初ミャンマーへのワクチン支援から始まりましたが、その後しだいに拡大。アジアの国々を中心に、多大な支援をするに至っています。国内での支援体制も大きく成長しています（もう私の出番はない？？）。今後も国際的な活動を繰り広げていくことになるでしょう。

● 1996年1月 ゆめいろ人形の展示

市内で活躍されている人形作家の小野裕子さん（ゆめいろ人形教室を主宰）より、院内に展示するお人形をいただきました。とっても可愛くて、優しいお人形たちの様子を見ていると癒されると、来院されている方々から好評をいただいています。もちろん私や職員も大好きなお人形たちです。

小野先生からは、その後も継続してお人形を制作してくださっています。院内の各所に展示していますし、待合室の一画には常時展示できるようにショーケースを設け、その時々のテーマに合わせた創作人形を飾っていただいています。中には、私も(院長)もモデルになっている診察室風景の作品もあります。探してみてください。

先日は当院30周年を記念して新しいお人形をいただきました。マスクをした男の子が、すがすがしいお顔で立っています。診察室で、私の脇に置かせてもらっています。